

2021.6.15

一般社団法人 全麵協 ニュースフラッシュ 8号



ニュースで伝える全麵協の今

発行：全麵協ニューフラッシュ編集グループ

全麵協

第8回定時社員総会予告

今年度の総会が今月27日に開催されます。新型コロナウイルス感染症の感染予防および飛散防止の観点から、今年も皆さんに集まってもらったの開催は不可能です。既に会員団体には総会資料が届けられているかと思いますが、会員の皆さまの健康と安全を第一に考え、可能な限り委任状提出による出席をお願いします。



令和2年度事業報告案概要

殆どの事業は延期・中止を余儀なくされました。年度当初は、程なくコロナの問題は解決し、元の状態に戻ると信じていましたが、この時期になっても緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が相次ぎ発動され状況は一層混迷を深めています。しかし、このことで全麵協の令和2年度事業報告が実りのないものになったことの免罪符にしようとは考えてはいません。できないながらもコロナ禍における段認定事業推進のための自主的ガイドラインを定め自ら律して事に当たったことは大いに評価できます。そのために手足を縛られたという声も聞きましたが組織としての良心を発露することができました。コロナ禍は悪いことばかりではありません。全麵協会員がそれぞれの立場で自分たちを見直すよい機会になったと思います。いろいろ問題点が浮かび上がり、それに立ち向かう努力が窺われました。

決算状況

収入 32,115千円（前年度 72,758千円）

支出 30,857千円（前年度 59,201千円）

事業の延期・中止の影響はやはり大きく、前年度に比べて収入は大きく落ち込見ました。収入の中には国のコロナ助成金が400万円ほど含まれていますが、このおかげで基金を取り崩さず済みました。国の各種助成金は新年度に入っても続けら

れていますが、可能な限り頂けるものは頂くための準備をしています。しかし、このような助成金も国の借金として後世に後始末を頼むことになるのかと思うといささか心が痛みます。

支出は収入の減少を請け、支部の運営助成ともいべき会費納入手数料の執行が予算の半額しかできませんでした。また、皆さまと本会を繋ぐ情報誌の会報が1回しか発行できなかったことは痛恨の極みでした。

こんな時だからこそ情報誌は最も重要な意思疎通の手段ですが、年度末からきめ細かな情報伝達としてニュースフラッシュを発刊しました。

令和3年度事業計画案概要

今年度もコロナ感染の状況を見ると、楽観はできません。事業計画では理事の皆さんの要望をいれ事業の段階をステップ1から4までに分類し、21項目に亘る事業を計画しています。

持ち越しになっておりました四段位認定会の各支部での開催や五、六段位認定会の開催等は最優先で取組む予定です。その他、従来の全麵協の事業にはなかった娯楽的な会員参加事業も計画されています。いずれにしても実現はコロナ感染の状況次第ですがコロナ感染対策としてのガイドラインを遵守しつつ事業に取り組みます。

五段位認定会の筆記試験開催のためには絶版状況のそば打ち教本の再版が不可欠ですが、現在、9月の発刊に向けて準備が進められています。しかし、筆記試験までに新しい教本が間に合わなかった場合、一次試験合格者には受験に必要な資料等は段位認定部の努力でカバーする方法を検討中です。

研修センター事業は前年度と同様にガイドラインに沿った方法で各種研修会や会員優先の利用に向けた諸策を検討します。

また、情報発信ではニュースフラッシュを皆さまに直接お届けする方法を検討します。

令和3年度予算案

収入 75,661千円、支出 57,930千円を計上していますが、コロナ感染状況によっては流動的です。

[フォロワーシップ]

埼玉県 理屈屋の蕎麦打ち

昨年来、日本も、中国発祥の武漢コロナ禍のせいで、大揺れに揺れています。ほんとに迷惑な話です。

今のこの状況は、ウイルスとの戦争といって良く、その総指揮官が菅総理なのですが非常な苦戦を強いられています。敵の情勢も、事態の推移も、適切な対応策も実のところは誰も分からないし、誰が指揮しても非常に困難な戦いであることは間違いありません。

なのに、テレビ等ではコメンテーターや専門家(?)が、無責任な発言を垂れ流して国民を混乱させているし、国会では野党が、政局がらみで政府与党の足を引っ張るだけ。そして、二言目には「総理のリーダーシップ不足だ」と、難癖を繰り返しています。

実はここに、大事なことが忘れられています。それは表題に掲げた「フォロワーシップ」いう概念です。

組織の構成員は、リーダーの指揮に積極的に従い、協力することで、組織の目標達成の努力をしなければなりません。リーダーの力だけでは、事は成就しないのです。

今まさに、リーダーとフォロワーが「日本の生存と繁栄」という共通の大目標に沿って、各々の役割を果たさなければならぬ時なのですが、一部にそうでない勢力があり、残念なことです。組織の目標に関する自覚とフォロワーシップについての再認識が必要と思います。

さて、ここで思うのが、昨年発足した新団体のことです。既存の団体から分離独立したのですが、その目標とするところも活動内容も、見るとほぼ同じです。であれば、既存団体の中に残って「フォロワーシップ」を發揮して、その同じ目標を追求すればよかったのに。これまた、迷惑な話だったなあと、つくづく思います。

[コロナ禍に思うこと]

福岡県 柿川 徳子

緊急事態宣言が発出され、倶楽部の活動も中止となりました。人生初の自粛生活で、積みっぱなしのそばの本やパンフレット、講習会の資料等を整理し、これまで交流した方々を久しく想うこのごろです。

この十数年めまぐるしかったけれどワクワクして楽しかったです。今後のそば活は継続できるのだろうか、悲観ばかりはしてられません。イベントや体験教室はまだ開催できません

本会は、皆さま方のご協力により年度会費を前年度末までに納入していただくことになっていますが、納入は順調に進んでいます。心配された類似組織の発足による会員減は当初予想されたほど多くはなく、やはり本物のもつ強みが發揮されたと思われま

す。持ち越しになっていました四、五、六段位認定会関係、支部活動の助成金執行、ニュースフラッシュのような情報連絡活動に要する費用は優先的に執行する予定です。

皆さまのがたのご協力で有意義な総会議論ができますようお願いいたします。詳しくはホームページを参照ください。

読者のページ

あなたにとってコロナは どんな影響がありましたか

未曾有のパンデミック、人は立場立場で大きな影響を受けていますが全国のそば打ち淑女紳士はどのように過ごされたでしょうか。各地から寄せられた声をご紹介します。

[コロナ禍を味方に]

大阪府 MAKOTO SUNANO

この一年、外出もままならず、仲間とのそば打ちも出来ず、愉しみの蕎麦前も叶わない…、当初はグチってばかりでしたが、最近はこの状況を少しでも前向きに受け取るよう心掛けております。

表に出られないなら自宅でじっくり取り組めることをしよう！と、石臼の目立ての勉強を始めたり、三密回避により物理的距離は離れても心は密に！と、「オンラインそば打ち会」で、遠方の仲間やお蕎麦屋さん”シン密”交流させて頂いたりしております。

また今春からご縁あって大学院生に成りました。還暦を越えて修士課程に挑戦出来たのも、コロナによる影響が大きかったと思います。

元々はそば打ち仲間の高校生が、大学入試論文のテーマに「そば打ちと社会貢献」を選ぶ相談にのったことがキッカケでした。仕事との両立が障壁だったのですが、仕事の大半がリモート化し学校もオンライン授業が増えたことが、参学を後押ししてくれました。

こんな時だからこそ そば打ちと真摯に向き合い、そこから学び、蕎麦道楽人生を思いきり楽しみたいと思っております。



んがそば打ちを楽しむことはできます。リモートで趣味の時間ができたからとか、そば打ちに興味はあったけど今まで手を出せなかった、休業中だからやってみたくとか、以外にも若い世代から声をかけられました。

そば粉の感触、香り、そば切りの音、小一時間もすると出来上がりの歓声があがります。美味しい手打ちそばの魅力が伝わるように楽しい時間を共有していきましょう。

倶楽部の例会は、会員を三分割し時間差で開き、情報交換はラインを活用しています。2年前から企画中の記念行事が実行できるように、早期のコロナ収束を願うばかりです。

[コロナ禍でのそば打ち体験道場の開設]

広島県 尾道そば道場 篠原 美文

緊急事態宣言が発令され公民館が休館となり、どうしてものか案していました。そうした中、尾道でウイークデーでも毎日400人の方が訪れるゴルフ練習場を思い出し、急遽練習場のオーナーに掛け合い、シースルーで中が見えるオーナー室を解放して頂けないか交渉した結果、「お客様が一人でも多く来てくださり、ゴルフの練習もし、そば打ち体験が出来るのなら喜んで提供します」と了解していただきました。また、そば打ち体験教室のPRもして頂き、地元のテレビ及び週刊誌の方も取材に来て下さり現在報道して頂いています。



この写真は、娘さんがゴルフのレッスンを受けている間、時間があるので是非そば打ち体験がしたいと言われた第一号の方の写真です。「そば打ちがこんなに楽しいとは、思いませんでした」とのコメントを頂き、次回も参加したいとのことでした。体験教室は、週3回の予定で開催しています。体験教室を通じ、全麵協に入会して頂ける方が一人でも増えるのを願ってやみません。

[コロナ禍での自由時間]

埼玉県 hiちゃん

昨年3月以来のテレワーク、外出自粛は私にとっては貴重な時間を提供してくれました。この2年あまりでいろいろなことができました。

・いつかは挑戦してみたいと思っていた信州大学井上教授の胴搗きそば。肉挽き機と挿り鉢で挑戦。びっくりするほど甘いそばに感動。



・家の建て替えで庭に山積みになっていたレンガ600個を庭に敷き詰めて芝刈りから解放された。

・プロの手を借りて手挽きの石臼を電動化していつでも自家製粉が可能になった。

・荒れ地を開墾して家庭菜園を160坪に拡張した。今年の畑は今のところ雑草に勝っている。

・大酒飲みが節酒に成功した。コロナで空いた時間、このままではアル中になりかねないと何回目かの禁酒宣言。今のところ続いています。(テレビのビールのコマーシャルには生唾ゴクリ)

・家内とクリニック併設のフィットネスに通い始めた。行き帰りの車内は久しぶりの夫婦の会話。体重が6キロ減った。

・孫に手伝ってもらって畑に一坪の物置を作った。ハンドルをたたまないし仕舞えなかった耕耘機がそのまま取まるようになった。

残ったもの

ちょっぴりの達成感と身体の節々の痛み

事務局便り

準備が進む教本改訂

9月の発刊に向けて出版元の柴田書店と編集作業が急ピッチで進められています。全麵協が要する原稿の入稿は既に終わり、旧本の外部執筆者の原稿見直し、プロのデザイナーによるデザイン作業が進んでいます。ご期待ください。

新入会団体紹介 令和3年6月13日付け
みなさま、よろしくお願ひいたします。

地方公共団体 賛助会員 宮城県 村田町

住 所 宮城県新発田郡村田町大字村田字迫6

代表者 村田町長 大沼 克巳

連絡先 まちづくり振興課長 武田 千尋

URL <http://www.town.murata.miyagi.jp>